平成 30 年度　8月21日（火）

REPORT３東部教育事務所

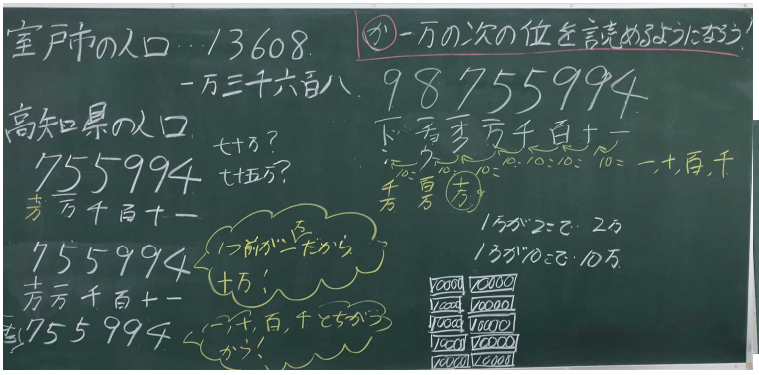
第３回　授業づくり講座　教材研究会

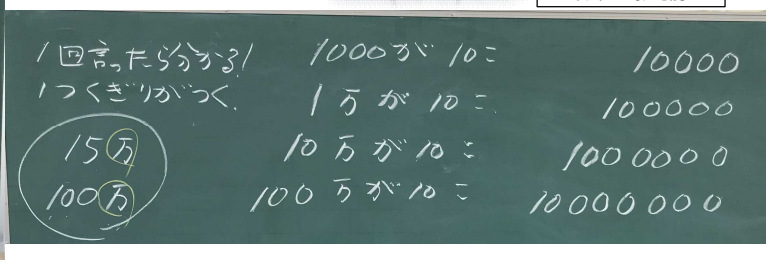
室戸市立室戸小学校

第３学年　「大きな数のしくみ」授業者　陰山　良太　教諭

本単元で付けたい資質・能力を「千万の位の数について、既習の数の仕組み（十進位取り記数法）から類推して考えることができる。」「数直線のよさに気付き、目盛りの付いた数直線上で数を表すことができる。」「数の多面的な見方、相対的な見方を活用して、数を捉えたり、数の大きさを比較したり、表したりすることができる。」の３点として捉え、教材研究・模擬授業を行いました。また、数の概念を広げ深めて４年生へとつなげることを意識した単元づくりを行いました。

陰山教諭



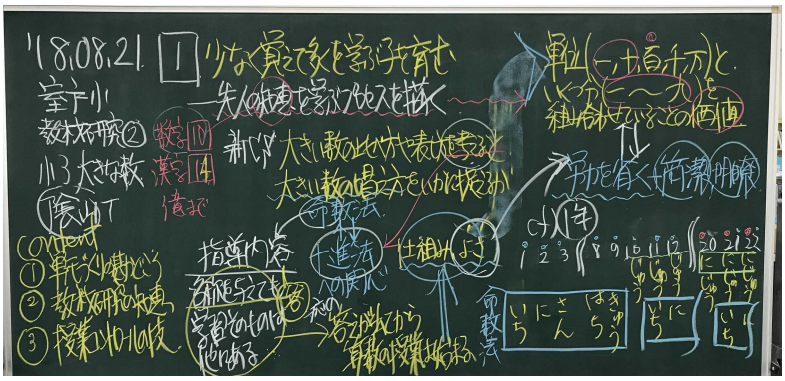


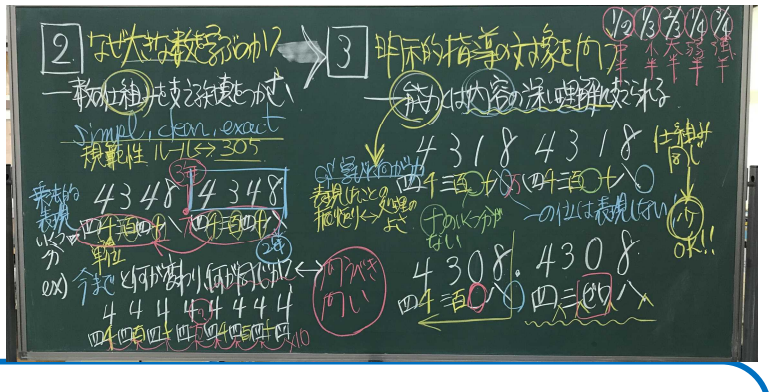
学力向上総括専門官より

①少なく覚えて多く学ぶ子を育む・・今までのように「どう唱えるでしょう。」ではなく、その唱え方から十進法を考えていくプロセスが大切である。一万の次は百万、百万の次は千万と分かってから算数の授業は始まる。そこから、命数法や記数法の仕組みやよさを追求し、先人の知恵を学んでいくことが大切である。

②なぜ大きな数字を学ぶのか・・私たちは数の仕組みを支える知恵をつかむために学んでいる。日本の命数法は乗法的表現によって成立していることに気付かせることが大切である。そして、同じ仕組みがたくさん見えてくる中で、「今までと何が変わり何が同じか」を問うことが、問うべき問いである。

③明示的指導の対象を問う・・一・十・百・千の繰り返し、０～９までの数字で全ての大きさが表せることなど、仕組みは同じで、少ない表現ですむということは、まさしく、新学習指導要領　第３学年　学びに向かう力「・・数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き・・」の部分である。





◆参観者より

○どんなことを子供に学ばせたいのかを考えながら、教材研究することの大切さと難しさを感じました。教えるべきことと、子供たちが本当に考えるべきことを見通して教材研究していきたいと思いました。

○学習内容は、１年生から繋がっていることは分かっていたつもりでしたが、「数」というものをどう見せるかが大切で、その付けた「数」の見方が各学年の授業に繋がっているので、低学年ではしっかりその素地を付けていくことが大切だと分かりました。

○模擬授業での教材研究会は、他人事にならず自分事として考える場となり勉強になりました。授業者の思いで、教材を見つめながら考えたつもりでしたが、齊藤先生の講話により、更に深い見方・考え方があることに気付かせてもらいました。教えるべきところはどこかを考えることで、単元全体を考えて、既習事項を確認して進ませる意義を学びました。

この教材研究会を生かした授業研究会は、**9月27日（木）PM**です！ぜひご参加ください。